

平成 23 年度後期・授業評価アンケートの概要【上野原・山梨市】

[I]はじめに

平成 23 年 12 月 14 日（水）～平成 24 年 1 月 23 日（月）（但し半期科目は平成 23 年 11 月 9 日（水）～12 月 20 日（火））の 1 週間にわたって、授業改善を目的とした、学生による「授業評価アンケート」をほぼ全科目で実施しました（*1）。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価）」から「1（否定的評価）」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（*2）。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライドなどの文字は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役に立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	05. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	06. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか
	07. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか
	08. 教員の熱意は伝わりましたか
③受講態度の評価	09. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
	12. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
④受講結果の評価	10. あなたは授業内容に触発されて、参考書を読むなどの学習意欲をかきたてられましたか
	11. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか +SQ 理由を問う副問
	13. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか +SQ 理由を問う副問

*1：匿名性の確保が困難な「履修登録者数が 5 名未満の科目」、結果の意味が曖昧な「複数教員の担当科目」は、原則として実施対象から除外しました。

*2：問 04・問 06・問 07 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしていません。

[II]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布しました。そのうえで、学科などで議論した結果、次のような対応策と要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度をつくるように努めてください。

●総合教育センター

【センターの対応】

- ・授業評価アンケートに一定の位置づけを与え、各教員の授業改善に役立てている。
- ・学生からの問題点指摘や要望（黒板の文字が読みにくい・小さい、話し方が速いなど）に対して改善に努めている。
- ・受講生に「何を学ぶのか」がわかるように、授業の冒頭に内容（項目）と構成を説明するようにした。
- ・座学であっても、できるだけ学生が参画できるスタイルを導入した。
- ・受講生の関心や水準を考慮した教材・テキストを取り入れている。

【学生への要望】

- ・学ぶことができる環境に感謝し、積極的・主体的に授業に参画してほしい。

●生命環境学部

生命科学科

【学科の対応】

自宅学習をする学生が少ないことが専門科目の共通の課題であるため、自宅学習を促すことが必要と思われる。講義内容のレベルを保ちつつ、学生の学習意欲を引き出すためにも、自ら学ばせる工夫を検討する。

【学生への要望】

専門科目の講義について、予習と復習の自宅学習を行い、自ら調べる学習姿勢を身につけてほしい。講義の不明な点を教員に質問することも自ら学習するという姿勢に結び付くので、積極的に行なってもらいたい。

自然環境学科

【学科等での対策】

アンケート結果を学科内の全教員で検討し、特に各アンケート項目で良い評価を得た教員の創意工夫を紹介してもらい情報交換をはかることにより、学生にとって満足感が得られるよう授業改善を進めていく。

【学生への要望】

実習や実験を通して培う実践的な知識と技術が本学科の大きな特徴のひとつであるが、講義による広範な基礎知識の習得があってはじめてそれらが習得できる。講義にはしっかり出席し、不明な点は定期試験前に各教員に質問し、自宅での学習も怠りなくやって欲しい。

アニマルサイエンス学科

【学科の対応】

各教員は、各自の評価の経時変化から授業改善の効果を確認する。個別事例は学科として共有する機会を設け、授業改善の参考とする。

【学生への要望】

授業の内容やレベルは、各教員の教育理念や資格修得上、必要なことに基づいておこなっていることを認識して欲しい。また、アンケートで低い評価をする時には、改善の参考とするためその理由を具体的にコメント欄に書いて欲しい。

●医療科学部

理学療法学科

【学科の対応】

教室の形状・スペースなどによる問題に対しては、実習や演習授業をグループに分け行う方法や複数の教員で授業にあたるなどの方法を取り対応する。

小テストや課題レポートなどが実施できる授業では積極的に実施し、授業以外でも助言教員が関わるようにして学習の支援を行う。また、小グループ制によるグループワークを中心とした授業を展開し、多数の教員によるオムニバス授業を増やすなどして多面的に学生を評価する。

【学生への要望】

課題レポートなど提出物の期限は厳守すること。

到達目標を確認したうえで、興味がある分野には積極的に取り組んでほしい。また、理解度の低い授業を放置せず、担当教員との関わりを積極的に構築する姿勢を作してほしい。

作業療法学科

【学科の対応】

- ・ 学生が授業に集中できるように、教員から学生に対する質問を行い学生間で話し合いを持つことなどを行い、常の授業に注意を向けざるを得ないような方法を積極的に用いる。
- ・ 幅広い学生層へ対応するため多様な資料を作成し活用する。写真や絵等のカラーによる視覚情報を増やす
- ・ 国家試験内容・レベルを重視し、適宜、国家試験内容・レベルを学生へ伝えていく

【学生への要望】

- ・ シラバスを確認し、予習復習を必ず行って下さい。
- ・ 遅刻は厳禁です。

柔道整復学科

【学科の対応】

- ・ 教員相互の授業参観や相互の評価などを積極的に取り入れる。
- ・ アンケート結果の評価を学科会議等において議論し分析を行う。
- ・ すぐれた教科書や教材について教員相互で情報交換する。
- ・ 授業方法について教員相互で情報交換をする。

教員の熱意が感じられる授業を展開し、板書、特に重要項目を黒板に記載しノートにとらせ理解度を向上させる。理解できていないと思われたらわかりやすい授業を心がける。そして、質問時間を多く取るようにし、授業方法に工夫を考え、学生の喚起を考えた授業を進めるように改善を図る。

【学生へ要望】

- ・ 授業評価で不満が多い評価目は学生の实情に応じて補習、補完教育を行って充実を図る。
- ・ 授業内容が理解できない場合は質問できる時間をもうけてあることを学生に周知徹底して質問するように学生に要請する。

授業への出席が大前提であるという出席の大切さを認識すると共に、授業中は他人に迷惑をかけることを認識し積極的に発言し、その中から理解できないときは質問できるようにして、学ぶ意欲や勉強のおもしろさを知り主体的に学習する態度を身につけてほしい。

●こども学部

こども学科

【学科の対応】

1. 評価の良い科目でも、自宅学習などの項目が低い科目が多く、講義科目でも時間の後半は適宜演習を入れ、過剰な負担にならない程度の自宅学習の奨励と座学への関心を持たせる工夫を行う。
2. 難しい用語などはわかりやすい言葉で説明を加え、実例によって関心を高める工夫を行い、質疑応答の時間を多く取るなどして、理解度を考慮しながら授業を展開するよう改善をはかる。

【学生への要望】

1. 自宅学習の時間を1時間/日でもよいので確保する。
2. 予習復習（特に復習）、パワーポイント使用時のノートテイクの手法の改善を努力する。
3. 授業に必要なノート筆記用具、教科書、配布物など忘れないようにすること。
4. 遅刻をしないよう時間管理する（数分の遅刻をするならば、もっと余裕を持って行動すること）。
5. 授業中の出入りは自重すること。
6. 授業への出席が当然の前提であるということを確認し、人の話を真剣に聞き、学ぼうとする意欲をもち、積極的に発言するといった、主体的な学習態度を身につけるようにしてほしい。

今年度も「授業評価アンケート」を実施しますので、ご協力お願いします。